

「人生一冊を探す旅①～子ども読書の日取組編～」

校長 江口 満



読書をするとき、私は、表紙を開いてまず飛び込んでくる最初の一文が好きだ。その一文から果てしない物語が始まるからだ。眠れない修学旅行や社会見学の前夜。楽しみにしている映画が始まろうとする瞬間。フルマラソンのスタート地点に立ち「スタート10秒前」と聞く瞬間。登山をするときの第一歩。最初の一文には、その興奮に似たものがある。

私は、新しい本を読み始める時、まず表紙を開き、最初の一文、一段落を何度かくり返して読む。その言葉からどのような世界が広がり、次にどのような言葉との出会いがあるのか、創造のアンテナをいっぱい広げながら、次の文章へと読み進めていく。そして、本を読み終えたとき、私は、最初の一文をもう一度読み直すのだ。そして私は、現在も私の「人生一冊」を探す旅を続けている。

「人はなぜ読書をするのか。」「読書とは、自分にとって何なのか。」と問われたら、生徒の皆さんは何と答えるだろうか。その問いに明快に答えてくれた一冊がある。読書の必要性を問われた時、私は必ずこの話をする。過去の校長通信「ジャガイモ」に掲載したことがあるが、集大成の年として、生徒の皆さんに伝えたい内容は、再掲させていただくことにする。

信州松本にある本庄病院に勤務する内科医 栗原一止 の物語。夏目漱石の『草枕』を愛読し、この影響より話し方が古風で、周りからは変人と思われる。その彼の生きざま、彼を取り巻く人間模様もまた赴き深い。「神様のカルテ」シリーズである。

ただこの作品に惹かれるのは、この人間模様だけではない。少し引用させていただくと、「信州の夏の夕焼けはひととき美しい。暮れゆく太陽が、北アルプスの無骨な稜線にさしかかるころ、空は目もくらむほどの朱に染まる。西を染め抜いた朱の色は、茜色から橙へと光を落とし、青、藍と移り変わって濃紺の東の空へと連続する。東を切り取る美ヶ原の稜線には、すでに夜の気配が濃い。日常を彩る東の間の非日常は、光と色の饗宴である。」この季節描写がたまらない。自然界の色だけではなく、音や香りまでも感じさせてくれる文章がちりばめられており、またそれが登場人物の心情と微妙に織りなされ、私の心を掴んではなさない。何度か信州松本へ訪れたことがあるが、またこの本を片手に散策したくなる一冊である。(裏面へ)

【右上】「子ども読書の日」の取組として、4月21日(金)1校時、各教室で本の朗読を見せるため、事前にテレビ収録した放送部の皆さん
【下・右】本年度着任された先生方の「人生五冊」を紹介①



S先生の「人生五冊」

- ① 蜜蜂と遠雷 (恩田陸)
- ② 流浪の月 (凧良ゆう)
- ③ 赤ずきん旅の途中で死体と出会う (青柳碧人)
- ④ 容疑者Xの献身 (東野圭吾)
- ⑤ 天使と悪魔 (ダン・ブラウン)

【コメント】

①恩田陸さんの長編小説です。国際ピアノコンクールを舞台に、コンクールに挑む4人の若きピアニストたちの葛藤や成長を描いた青春小説。本の中から、音楽が聴こえてくるようで、爽やかな気持ちになります。スッと音楽の世界に引き込まれますよ！

②生徒に薦められ面白すぎて一気に読んだ一冊。「本屋大賞」にも選ばれ映画化！被害女兒と加害者とされた当時19歳の青年。二人が誰にも打ち明けられない秘密を抱えて生き、15年後に再会。どんなストーリーが展開されるのか？是非読んでみてください。

③皆さんが良く知っている童話の世界で起こる事件を、旅の途中の赤ずきんが探偵役として解決していくミステリー本。「大きな謎」も隠されていて、わくわく、ドキドキが止まりません！

④東野圭吾さんの作品で一番好きな本です。本作は、ガリレオシリーズ初の長編です。命がけの純愛が生んだ犯罪に天才物理学者の湯川学が謎に挑むこの作品は、まさかの結末。目が離せません。オススメです。

⑤ずっと昔に読んだ一冊ですが、とても印象に残っている本です。ハーバード大の図像学者ラングドンがスイスの科学研究所長から電話を受け、ある紋章についての説明を求められるところから物語が始まります。予想しない展開が次々と繰り広げられ…。あまりにも面白くて、私は舞台であるイタリアに旅行しました！

Y先生の「人生五冊」

- ① 蜜蜂と遠雷 (恩田陸)
- ② 夢幻花 (東野圭吾)
- ③ 卵の緒 (瀬尾まいこ)
- ④ 赤ヘル1975 (重松清)
- ⑤ めぞん一刻 (高橋留美子)

【コメント】

私が本を好きになったのは30歳ごろだったので、若い頃に本を読んでこなかったことを今でも後悔しています。読書が好きになるタイミングは、良い本に出会ったときです。苦手な人もいろいろ手に取って、パラパラめくってみましょう！

「神様のカルテ」のシリーズの第四作「神様のカルテ^{ぜろ}0」の中に、もと高校で国語を教えていた病身の國枝先生が語る言葉が、本の必要性を語りかけてくれるのだ。その一部を紹介させていただきます。

「本はよいですね、」

「本にはね、先生。「正しい答え」が書いてあるわけではありません。本が教えてくれるのは、もっと別のことでしょ、」

「ヒトは、一生のうちで一個の人生しか生きられない。しかし本は、また別の人生があることを我々に教えてくれる。たくさんの小説を読めばたくさんの人生を体験できる。そうするとたくさんの人の気持ちもわかるようになる、」

「困っている人の話、怒っている人の話、悲しんでいる人の話、喜んでいる人の話、そういう話をいっぱい読む。すると、少しずつだが、そういう人の気持ちがわかるようになる、」

「優しい人間になれる、」

「優しさは弱さではない。相手が何を考えているのか、考える力を「優しさ」というのです、」

「優しさというのはね、想像力のことでしょ、【次号に続く】」



【上】「子ども読書の日」の取組として4月21日(金)1校時、放送部の皆さんが収録した朗読映像を視聴する3年1組の皆さん

【下】「子ども読書の日」の取組として4月21日(金)2校時、本の紹介文を書く3年生の皆さん

「最後の中学校生活を楽しむ」

3年1組 Iさん

三年生になって私達は受験生になり、この学校の最上級生にもなりました。三年生といえば受験があります。受験に向け、勉強の方法などを自分で考えないといけないし、受験シーズンまで間に合わなかったらいけないので不安が大きいです。今後の自分の人生にも関わってくるので、時間を大切にしていきたいです。

受験の前にも自分の中で不安なことがあります。

7月にある部活の全国コンクールです。私達には金賞をまた取りたいという想いと、これまでの努力してきたことがあります。でも賞を取れなかったときや、あと一歩だったときのことを考えると悔しいし、みんなが望んでいる金賞を取れなくても今までよくがんばった、今までで一番良い演奏だ、と言えるように引退まで気を抜かず全力で取り組もうと思います。また去年は、先輩についていく側だったけれど、今回は先輩として、副部長として後輩を引っ張っていく側になったので、一、二年生が困らないようにしていきたいです。

引退した後は、普段だったら帰宅後にスマホをいじって寝るという生活でしたが、受験生なのでそこを我慢して勉強しないとけません。この時期にどうするかで自分のこれからも変わっていくので、一生懸命に取り組んでいきたいです。

そして受験や部活とは違って私が楽しみにしているのは、修学旅行です。京都や奈良の関西方面にはまだ行ったことがないし、何よりも友達と行くことができるのでうれしいです。中学校生活の一番の思い出になるかもしれないので、しっかり楽しみたいです。受験生という言葉が少し重く感じるけど、勉強と部活にちゃんと取り組んで、最後の中学校生活を楽しんでいきたいです。



「不安を力に変えて」 3年4組 Yさん

三年生になって、二年生の時とは違う感じになって緊張しています。今までよりも勉強が大変になり、ついていけるか不安です。新しいクラスになって、一緒にいるクラスになったことがある人や話したことがある人が増えたので、一番楽しいクラスになればいいなと思っています。三年生で一番楽しみなのは体育祭です。中学校で最後の体育祭だから周りの友達も本気でやると思うから、一番思い出に残りそうだなと思います。テストや入試とかも、一、二年生の範囲からも出るから、今まで分からないままにしていた所を復習したり、分からないままにしないで解き直したりしないといけないと思います。家庭学習の時間が少ないから長くしないといけません。

部活で作る作品も最後になるので、良い賞を取って終わりたいです。則松中学校の最上級生になって、部活で関わる一、二年生だけじゃなくて、学校にいる一、二年生のお手本になるような先輩にならないといけないと思います。

将来なりたいと思う職業がまだ決まってないんで、進路の話を聞いたり、なりたいと思う職業を見つけて調べたりしないとけないんだとも思います。小さな目標を作って達成させていくために、自分が決めたことを最後までして、途中であきらめないように過ごそうと思います。一番不安なことは勉強だけ、学校行事は勉強を一時忘れて楽しもうと思うし、中学校最後のクラスだから一番楽しかったなって思えるクラスになるといいなと思います。